

【一】一七世紀の耕地開発と売買

(一) 新溝と耕地の開発

1 つぶら野芝山新田開発承諾書 承応二年(一六五三)

清水上番田人文書

一つぶら野芝山進申候、新田ニ御ひらき可被成候、村中百姓少も申分無御座、進申候上ハ後日ニ違乱申間敷候、仍而証文如件、

寺原村

市右衛門 印

同 仁左衛門 印

承応二年巳正月十六日

同 与 助 印

同 清右衛門 印

同 与左衛門 印

左太夫殿

2 小峠新田畑高反別改め 承応二年(一六五三)

清水上番田人文書

一清水村小峠、新田ニ起シ申度由被相望候ニ付、田老反ニ付高四斗宛、免相者定式ツ成ニ相定候間、其方成次第二情^(通)を入、起可被申候、以上、

承応二年

寺島孫右衛門 印

巳二月

田所平左衛門 印

丹羽安太夫 印

三田村

左太夫殿

3 小峠新田畑高反別改め(写) 承応三年(一六五四)

湯川久弥家文書

定式ツ取

一四 一新田八反六畝六歩 小峠分

高三石四斗四升八合

一五 一切畑老反五畝歩 同所

高五斗七升五合

合四石式升三合

承応三年

田所平左衛門 印

寺島孫右衛門 印

午ノ八月

丹羽安太夫 印

4 蘭嶋新田開発承諾書一 明暦元年(一六五五)

清水上番田人文書

一嶋進申候、新田ニ御ひらき可被成候、村中百姓少も申分無御座候、其上新溝御ほり被下候へハ、西原日損所蘭畑、田ニ罷成候へハ、村中百姓つよりニ罷成候上ハ、少も申分無御座、嶋進申候、後日ニ違乱申間敷候、仍而証文如件、

寺原村

市右衛門 印

西原 平 吉 印

寺原 仁左衛門 印

同 与 助 印

同 清右衛門 印

同 与左衛門 印

西原 久一郎 印

左太夫殿

佐左衛門殿

5 蘭嶋新田開発承諾書二 明暦元年(一六五五)

清水上番田人文書

一嶋進申候、新田ニ御ひらき可被成候、村中百姓少も申分無御座候、其上新溝御ほり被下候へハ、西原日損所蘭畑、田ニ罷成候へハ、

村中百姓つより二罷成候上ハ、少も申分無御座、嶋進申候、後日
二違乱申間敷候、仍而証文如件、

明暦元年未正月十五日

寺原村 市右衛門 印
西原村 平 吉 印
湯子川 喜太夫 印
同 文二郎 印
同 六左衛門 印
寺原 仁左衛門 印
同 与 助 印
同 清右衛門 印
西原 与左衛門 印
久二郎 印
左太夫殿
佐左衛門殿

明暦貳年申二月十五日

寺原 市右衛門 印
同 仁左衛門 印
同 与 助 印
同 清右衛門 印
同 与左衛門 印
左太夫殿
佐左衛門殿

8 小原新田開發免相定め 明暦二年(一六五六)

清水上番田人文書

一 清水村小原御檢地帳面之外之芝、新田ニ起シ申度由被相望候ニ付、
田壹反ニ付高四斗宛、免相者定式ツ成ニ相定候而、其方成次第情
を入、起シ可被申候、以上、

6 かと淵新田開發免相定め 明暦元年(一六五六)

清水上番田人文書

一 蘭嶋かると淵嶋之分、新田ニ起シ申度由被相望候ニ付、田壹反
ニ付高四斗宛、免相者定式ツ成ニ相定者也、以上、

明暦元年 丹羽安太夫 印

未ノ三月 田所平左衛門 印

三田村 寺嶋孫右衛門 印
左太夫殿

9 小原・蘭嶋新田畑高反別改め(写) 明暦三年(一六五七)

湯川久弥家文書

定式ツ取

7 小原新田開發承諾書 明暦二年(一六五六)

清水上番田人文書

一 小原芝山御檢地帳面之外之分進申候、新田ニ御ひらき可被成候、
村中百姓少も申分無御座候、其上新溝御ほり候へハ、小原本田日
損所へ水か、り候へハ、百姓つより二罷成候上ハ、少も村中百姓
中異儀無御座、進申候、為後日証文如件、

上ノ段 一新田式町式反三畝九歩 小原

中岸 一同 壹反四畝 同

下ノはし 一同 七反七畝式拾七歩 同

下ノ段上 一同 四反五畝式拾七歩 同

下ノ段中 一同 三反式畝式拾七歩 同

是ハ市右衛門分

蘭嶋 一同 壹町七反三畝拾五歩 西原町

四 合五町六反七畝拾五歩

此高式拾貳石七斗

五 一切畑三町七反五畝

此高壹石八斗七升五合

式口合式拾四石五斗七升五合

明曆三年

酉ノ九月

田所平左衛門 印
本間彦十郎 印
片山太兵衛 印

(明曆三年以降の追記)

「右ノ外ニ

四反六畝九歩 蘭嶋後ノ改

此高

(二) 清水村の分村

10 検地帳尻高分け帳

寛文六年 (一六六六)

湯川久弥家文書20

(表紙)

「 寛文六年 寺原

御検地帳尻 西原高分ヶ帳控

ネノ六月 湯子川

清水村

田畑合六拾壹町四反三畝拾七歩

長谷川忠右衛門
清水村

十六一上田三町貳反式拾歩

壹反二付八斗六升九合七勺

五拾貳石九斗壹升

一四一 中田三町九反六畝六歩

五拾七石四斗四升九合

十一 下田三町八反六畝五歩

四拾貳石四斗七升八合

七 一下々田四町拾八歩

式拾八石四升貳合

八 一下山田壹町貳反六畝拾八歩 拾石壹斗貳升八合

四 一下々山田六町七畝八歩 貳拾四石貳斗九升

十三 一屋敷壹町七反九畝拾六歩 貳拾三石三斗四升

一 一桑五拾八束 五斗八升

一 一紙千九拾五束 貳拾壹石九斗

一 一茶六百七拾壹斤貳拾四匁 四拾石貳斗六升七合

田方合式拾町壹反七畝壹歩 米合三百壹石三斗八升四合

外二

一 一五反九畝九歩 三石三斗六升四合 新田 寛永十七年 辰ノ年ノ入

一 一畑八反五畝三歩 貳石貳斗四升七合 畑返り 慶安元年 子ノ田ニ成ル

一 一畑七町四反九畝拾七歩百拾九石五斗 畑返り寺原分寅ノ田ニなる

一 一畑貳町九反四畝十四歩 四拾石五斗 畑返り 明曆三年 西原分 寅改出し

一 一畑四反三畝 五石八斗六升五合 畑返り 同年

一 一畑壹反八畝 貳石四斗五升六合 畑返り 同年

田方合三拾六町六反六畝廿四歩高四百七拾五石四斗八合御免定高

内 壹反六畝 貳石八斗 古城

壹反四畝拾八歩 壹石五斗三升三合 古荒 向田 荒

五畝拾七歩 壹石六斗七升 馬場返り 承応三年 荒午年ノ

(補記)

外二 四石九斗 六反壹畝五歩 新田丑ノ入

四拾七町貳反七畝廿九歩

高合四百七拾九石四斗九升八合 田方

式畝廿七歩 式斗六升九合 未ノ溝代 蘭溝敷
壹反三畝九歩 七斗 申ノ溝代

内 七畝十八歩 三斗四合 久野原溝代小原分
五畝廿一歩 三斗九升六合ゆこう田溝御掘次溝代

壹反六畝 式石八升 御八幡社芝荒
壹石 寺原よわ百姓畝引

小以九石三斗三升式合 荒
外二

壹反式畝廿七歩 四斗九升 溝床可成
合八反壹畝八歩 九石八斗式升式合

内 式石式升 丑夕起壹反六畝 辰夕あれ

十四一上畑五町五反式拾式歩 七拾七石壹斗三合

十二一中畑七町六反五畝拾壹歩 九拾壹石八斗四升四合

七 一下畑五町三畝廿五歩 三拾五石式斗三升八合

三 一下々畑四町五反八畝式拾歩 拾三石七斗六升

一下山畑式畝式拾八歩 八升八合

壹斗五一下々山畑八反壹畝拾四歩 壹石式斗壹升八合

壹斗一切畑拾三町六反三畝拾六歩 拾三石六斗三升五合

畑方合三拾七町式反六畝拾六歩 大豆合式百三拾式石九斗壹升六合

外二

一新畑四反壹畝拾六歩 壹石式斗九升 寛永十七年 辰合本畑二入

畑方合三拾七町六反八畝式歩 大豆合式百三拾四石式斗六合

内

八反五畝壹歩 式石式斗四升 子合田二成ル

九町四反三畝三歩 百拾三石八斗壹升九合 寅ノ田二成ル

内 九町三反七畝十九歩 寺原分 百拾壹石六斗五升五合
五畝拾四歩 ゆこ川分 壹斗六升四合

三町四反六畝拾八歩式拾八石五斗七升七合酉ノ田二成西原分
壹反八畝三歩 五斗四升三合 同年同断寺原分
七反五歩 三石八斗七升四合 同断 ゆこ川分

残テ式拾三町五畝 高八拾五石壹斗四升六合 御免定高

内

壹反三畝拾歩 壹石六斗式升五合 寅ノ溝床但主々小前なし
是ハ畑返り御檢地御うち候時のけ候て御うち候二付、主々引無之□

壹反 壹石式斗 津本分荒

四反六畝九歩 壹石四斗八升壹合 未ノ溝床蘭溝分

四反五畝十五歩 三石九斗三升七合 古荒

五反式畝九歩 五斗四升三合 酉夕荒

合八石七斗八升六合 此町壹町六反七畝拾三歩

外二

壹反四畝廿七歩 七斗八升八合 宮芝 寛文四年 辰夕荒

(改丁)

一田畑合三拾七町八反式拾式歩 清水村之内 寺原村

一拾四町式反式拾七歩百拾八石七斗九升式合本田高

一壹町三反七畝三歩 拾七石八斗式升三合 屋敷

一三反壹畝拾三歩 壹石六斗式升五合 新田辰合本田入

一六反拾歩 壹石五斗式升 畑返り子合田二入

一七町四反四畝三歩 百拾九石四斗一升七合畑返り寅合田二入

一壹反八畝 式石四斗五升六合 畑返り酉合田二入

一茶三百五拾五斤八拾四匁 式拾壹石三斗式升五合

一紙五百四拾八束 拾石九斗六升

一桑四拾六束 四斗六升

田方合式拾四町壹反壹畝廿六歩 高合式百九拾四石三斗七升八合

(改丁)

一畑方式拾壹町五反廿六步 百六拾六石四斗五升五合 本畑高
一畑方四反拾三步 壹石貳斗壹升三合 新畑辰合
畑方合貳拾壹町九反壹畝九步 大豆合百六拾七石六斗六升八合

内

六反貳步 壹石五斗貳升 子分田二成ル
九町三反七畝拾九步 百拾三石六斗五升五合寅分田二成ル
壹反八畝三步 五斗四升三合 酉分田二成ル
残而拾壹町七反五畝七步 大豆高五拾壹石九斗五升

(改丁)

一田畑合九町貳反五畝貳拾七步 清水之内 寺原村
十六一上田六町壹反三畝五步 百壹石壹斗七升
十四一上田六町壹反三畝五步 拾五石九斗三升
十一一下田貳反壹畝貳步 貳石三斗壹升七合

田方合七町四反四畝三步 八石七斗五升
十四一上畑六反貳畝拾五步 拾壹石五斗壹升壹合
十二一中畑九反五畝廿八步 壹石六斗三升五合
七 一下畑貳反三畝拾壹步 壹石六斗三升五合
畑方合壹町八反壹畝廿四步
高合百四拾壹石三斗壹升三合
米百拾九石四斗壹升七合
大豆貳拾壹石八斗九升六合

(改丁)

一田畑合拾四町四反七畝廿六步 清水村之内 西原村
一田四町三反八畝拾九步 六拾貳石九斗八升 本田
一屋敷貳反四畝廿八步 三石貳斗四升三合
一新田壹反二畝廿六步 六斗八升九合 辰分入
一貳町九反四畝廿四步 四拾石五斗壹升壹合 酉ノ畑返
一茶百四拾三斤百八拾目 八石六斗三升四合

一紙貳百八拾三束 五石六斗六升
一桑六束半 六升五合
田方合七町七反壹畝七步 米合百貳拾壹石七斗八升貳合

(改丁)

一畑方九町七反拾步 四拾八石八斗三升四合 本畑
一新畑壹畝三步 七升七合 辰分入
畑方合九町七反壹畝拾三步 大豆合四拾八石九斗壹升壹合
内
三町四反六畝拾八步 貳拾八石五斗七升七合 酉分田二成ル
残而六町貳反四畝廿五步 高貳拾石三斗三升四合

(改丁)

一田畑合拾町壹反五畝貳拾四步 清水之内 湯子川村
一本田三町七反七畝廿九步三拾三石五斗五升五合
一屋敷壹反七畝拾五步 貳石貳斗七升五合
一新田壹反五畝 壹石五升 辰分本田へ入
一貳反四畝貳拾三步 七斗貳升七合 子ノ畑返り
一五畝拾四步 壹斗六升四合 寅ノ畑返り
一四反三畝 五石八斗六升五合 酉ノ畑返り
一茶百七拾壹斤百六拾目 拾石三斗六合
一紙百六拾四束 五石貳斗八升
一桑五束半 五升五合

田方合四町八反三畝廿壹步 米合五拾九石貳斗四升九合
内
壹畝廿七步 壹斗三升三合 未溝床蘭溝
壹畝三步 七升七合 申ノ溝床湯子田溝

外二
小以貳斗壹升

六反三畝五歩 四石九升 新田 丑ノ本田へ入

田方合五町四反四畝廿六歩高六拾三石三斗三升九合

(改丁)

一畑方六町五畝拾歩 拾七石六斗貳升六合 本畑

内

貳反四畝貳拾三歩 七斗貳升七合 子ノ田ニ成ル

五畝拾四歩 壹斗六升四合 寅ノ合

七反五歩 三石八斗七升四合 酉ノ合

残而五町四畝廿八歩 高拾貳石八斗六升壹合

内

三反貳畝 六斗四升 未ノ溝床荒

一田畑合四町貳反三畝九歩

内わけ

田畑三町四反八畝廿四歩 西原村分

内 下田壹畝三歩

残而三町四反七畝廿壹歩

内

一上田壹町四反五畝六歩 貳拾壹石七斗八升

一中田壹町壹反四畝拾五歩 拾五石五斗貳升貳合

一下田壹反四畝拾五歩 壹石四斗五升

一下々田五畝廿四歩 四斗六合

田方合貳町九反五畝廿七歩 高四拾石五斗八升八合

内 七升七合

残而高四拾石五斗壹升壹合

十四一上畑三畝拾八歩 五斗四合

十二一中畑壹反四畝九歩 壹石七斗壹升六合

七 一下畑壹反壹畝廿七歩 八斗三升三合

三 一下々畑七畝三歩 貳斗壹升三合

壹斗一切畑壹反六畝 壹斗六升

畑方合五反貳畝廿七歩 高三石四斗貳升六合

高合四拾三石九斗三升七合

田畑合五反三畝 湯子川村分

内

十五一上田壹反七畝六歩 貳石五斗八升

十三一中田壹反九畝廿七歩 貳石五斗八升七合

十一一下田壹畝九歩 貳斗三升

十三一屋敷三畝拾八歩 四斗六升八合

田方合四反三畝 高五石八斗六升五合

十二一中畑貳畝三歩 貳斗五升貳合

七 一下畑九歩 貳升壹合

一下々畑七畝拾八歩 貳斗貳升八合

畑方合壹反 高五斗壹合

高合六石三斗六升六合

田畑合貳反壹畝拾五歩 寺原村

内

十五一上田五畝貳拾四歩 八斗七升

十三一中田壹反壹畝九歩 壹石四斗六升九合

十三一屋敷貳拾七歩 壹斗壹升七合

田方合壹反八畝 高貳石四斗五升六合

一下々畑三畝拾五歩 壹斗五合

高合貳石五斗六升壹合

右者御公儀より御渡被致候御檢地御帳面、及大破申二付相改、御帳之写を仕、其後畑返り・新田畑・本田入、并荒・川成改、惣帳尻我等相極、少も相違無之様ニと存、如此仕置候、已上、

(改丁)

清水村寺原庄屋
市右衛門

一 ななひちの西山雑木山 丑の未へ十一町

清水分

清水村

一 式拾八町四拾式間宮崎の本道清水久野原

一 村中分
東式拾六町 四拾式間 清水村中久ノ原村中迄
南六拾六町 四拾間 清水の下湯川迄
西四拾三町 四拾間 清水の境川宮迄
北式拾七町 五拾間 清水の宮川庄屋迄

一 村長八町丑寅の未申
横三町辰戌

一 六拾六町四拾間清水の下湯川迄

一 山長三町 三拾六間 雑木山松少

寺原

内拾貳町貳拾四間 清水領
内拾四町拾八間 久ノ原領
内貳拾四町四拾間 清水領
内四拾貳町 下湯川領

一 川歩渡りは、式拾間つゝ、ノ渡り式瀬

一 村の辰巳ニ柴山少雑木有

東西へ壹町 高三拾間木ノ有分

一 同長四町 四拾間 雑木山松少

一 村の未ニ雑木山 長六、町辰の戌へ廻ル 高壹町

湯川谷の入廻ル長三町

一 四拾間四方 高拾五間古城屋敷
此城山保田三助かへ城、村の東ニ当ル

一 村の申ニ雑木山少松有

高壹町
七ひち山之ふもと

一 長三拾間 八幡山 かし木山

一 村の北ニ雑木山 木ノ有分

八幡山

一 長三拾間 八幡山 村の酉ニ当ル

八幡山

一 村の北山東西貳拾六町四拾間 高六町
山の名ハしろとうの丸と申

一 村の辰巳山東西貳拾五町 高四町
やまの名ハ大谷と申

一 長壹町 三拾間 柴山
高壹町拾間 村の戌亥ニ当ル

一 村の南山戌の辰ハ三拾五町 高六町
山の名ハ七ひちと申

一 右北山之内雑木山 木ノ有分
是ハ八幡山、村中の子ニ当ル、残ハ萱山

一 長貳町 高式拾間 村の東北ニ当ル
山の名ハわ城と申、但長バきゼンもんかへ城

一 右辰巳山之内柴山雑木 東西へ壹町
高三拾間 木ノ有分

一 長貳町 高式拾間 村の辰西ニ当ル
雑木山松少 湯子川村

一 南山之内雑木山少松有 川東木ノ有分

一 柴山ハ本村の申ニ当ル、残ハかや山、湯川の出ル、川之にし

一 長五町 式拾壹間 柴山雑木少

一 南山ハ本村の申ニ当ル、残ハかや山、湯川の出ル、川之にし

一 長貳町 高壹町 村中未申ニ当ル
山の名ハミナミの丸と申
雑木山松少 西原村

一 南山ハ本村の申ニ当ル、残ハかや山、湯川の出ル、川之にし

一 長貳町 高壹町 村中未申ニ当ル
山の名ハミナミの丸と申

一 南山ハ本村の申ニ当ル、残ハかや山、湯川の出ル、川之にし

一 長貳町 高壹町 村中未申ニ当ル
山の名ハミナミの丸と申

一 南山ハ本村の申ニ当ル、残ハかや山、湯川の出ル、川之にし

一 長貳町 高壹町 村中未申ニ当ル
山の名ハミナミの丸と申

(改丁)

一 三百拾間 雑木山松少

高三拾間 村々戌亥二当ル

山の名ハ春日の山也

一長三町 三拾壹間

高三拾間 蘭ヶ亥二当ル

雜木山

一式拾七町 式拾間清水ヶ
宮川迄 一拾五町 式拾六間清水ヶ
三田辻堂迄

一式拾貳町 式拾三間清水ヶ
三田久之原迄 一四拾五町 四拾三間清水ヶ
三瀬川迄

(三) 売買・質入証文

11 家・土地売渡し証文 承応元年(一六五二)

湯川久弥家文書

永代売渡し田地ノ事

一家屋敷・田地、茶・かみ 畑ヶ田分右共、切畑共 寺原西地
右ハ永代代銀四拾目ニ売渡し申所実正也、代々其方之地ニうたかい
御座なく候所実正なり、右ノ銀ハ弥七郎御未シ方へ相濟申候、右
ハ弥七郎御未シ御座候ゆへ、村中へ上ケ申候ニ付、村中ニ田地請
取、湯子川弥七郎売渡し代銀請取、弥七郎御未シ方相渡し申所実正
也、為其売ヶ状、仍而如件、

承応元年

辰極月廿一日

三十郎 花押

寺原村中 ○

但し、役之儀ハ半役之はつニ相定申候、高か、り不申ニ及、高か、り処

之田地分ハ、本役なミニ相定申候、

庄右衛門 印

伝 八(花押)

賀太夫 印

左右衛門 印

彦右衛門 印

善太夫 印

甚左衛門 ○

与兵衛(花押)

伝三郎 ○

湯子川弥七郎殿

(以下裏書、異筆)

「右之弥七相はて申候ニ付、三田村甚四郎ニ弥七ノ田地・家屋敷
やり可申、寺原へ参候て、現地屋敷立申候得と申参候得共、甚
四郎申参候ハ、西地へ参候て、田地少所ニおや・女子すこされ
不申候間、於西地ハ孫子の末までかすみ、無間々候間、何方ま
ても入ゑをたつね、西地屋敷立申と甚四郎被申候間、茂太夫
西地永代渡シ申候間、弥七御未進之儀、茂太夫被致はつニ相定
申候、其上、茂太夫ニ子共出来候へは、其子ニあとやり、弥七
女子つる儀ハ何方へも何方へもはなし可給候、為其永代相渡し
ヶ状如此ニ候、以上、

巳ノ四月廿一日

同 茂太夫殿

寺原 半太夫 ○

12 家売渡し証文 延宝七年(一六七九)

湯川久弥家文書

売渡し申家之事

一家老軒 但式軒
三軒 敷板・はた板・戸し(障子)ようじ三拾本、但し右かや
のけ其外家ニ付申物ノ分、代銀百八拾目ニ相定売渡し、只今右之
代銀儘ニ請取、我等御未進ニ上納申所実正也、右ノ家ニ付何方
も少茂申分無御座候、為其後日、売券状仍而如件、

延宝七年

未ノ極月

寺原村 加左衛門殿

久野原村売主 長 作 印

同村証人庄屋 一郎右衛門 印

同組頭 左衛門五郎 印

13 蔵売渡し証文 延宝七年(一六七九)

五 助 印

長右衛門 ○

清右衛門 印

湯川久弥家文書

売申藏・大つほ之事

一藏老軒・大つほ一つ

代銀三拾三匁ニ売申所実正也、重而いか様も其方へ御取被成可被申候、為其如此御座候、

延宝七年未極月廿八日

清水村
加左衛門殿

売主久野原
次兵衛 ⑩

14 土地売渡し証文 延宝八年（一六八〇）

湯川久弥家文書

寺原村 永代売渡し申田地之事

一西地之内畑ケ田 三反三畝三步 但、大谷切畑共

此高四石七斗五升四合五勺也

右之代銀五百拾壹匁ニ相定、永代売渡し、代銀請取御未進ニ上納仕候処実正明白也、為其元弥七と申者買証文相添、無相違相渡し申上ハ、子々孫々致迄申分無之候、若何方々違乱妨於有之者、我々判形之者共罷出、埒明可申候、為後日仍而売券状如件、

売主寺原

茂太夫 ⑩

同 半太夫 ⑩

同 伝兵衛 ⑩

同 市右衛門 ⑩

同 甚太夫 ⑩

同 喜太夫 ⑩

同 甚助 ⑩

同 三九郎 ⑩

15 家出来目録 延宝八年（一六八〇）

湯川久弥家文書

寺原村屋形前と申家出来目録

一本人足式百五拾五人

古屋敷・新屋たたミ人足筋

一屋ねふき人足拾四人

外二手間八人

一ふきかや⑩式千七百五拾四貫目

内五拾荷

人足合五百五拾式人

外二武竹五束・松壹荷壹束

藁繩拾八束

壹束茂左衛門 壹束伝八

壹束利兵衛 壹束彦十郎

五わ一郎太夫 五わ伝十郎

式わ庄三 三わ左衛門左

三わ甚太夫 四わ与右衛門

右者延宝七年未ノ極月十一日申ノ二月迄ニ出来、但シ元久野原村平内と申家、本人長作ニかい申此通出来仕候、此家右之年号迄ニ式拾六年ニ相成候由、我三拾壹才之春、右之力添へ出来仕者也、仍而後日為覚如件、

延宝八年申式月吉日

湯川加左衛門 ⑩

16 質入証文 天和四年（一六八四）

湯川久弥家文書

指入申質物之事

一御公儀御借シ廻銀式貫目、各々兩人請人ニ而拝借仕候、此質物ニ嶋新田我等分指置申候、御急用之時、若我等遅々仕候ハ、各々支配被致、御公儀へ上納可被致候、為其如件、

天和四年子正月八日

本人
笠松佐太夫 ⑩

未極月三日合同廿六日迄
但シ春人右之内式拾工
但シ大工四拾工

同 しこね喜兵衛人

竹三束 福井与右衛門二部
同式東 遠井七左衛門
松壹荷 峠半左衛門
同卷種 久ノ原武左衛門

三田村庄屋証人
弥助 ⑨
寺原村庄屋証人
市右衛門 ⑨

寺原
加左衛門殿
久野原
十兵衛殿

17 田地永代売証文 貞享元年（一六八四）

湯川久弥家文書

永代売渡申田地之事

一新田式反也

田方境目八類地限

高八斗也

一新畑式反歩

上下ノ岸

高壺斗也

右之通永代売渡シ、代銀壺貫式百目請取申處実正明白也、田畑高之儀、御公儀御帳面之通ニ可被致所持候、右紙面之通売渡、代銀受取申上者、子々孫々迄申分無之候、若何方違乱妨申候者有之候者、我々急度埒明可申候、為後日之仍而売券証文如件、

貞享元年
子ノ八月五日

本売主三田村
三田富右衛門 ⑨
小峠村証人
笠松佐左衛門 ⑨
同
九郎大夫 ⑨
同
弥之助 ⑨
同寺原村庄屋
市右衛門 ⑨

寺原村
加左衛門殿

〔裏書〕右表書之通承届ケ申候、以上、笠松佐太夫 ⑨

18 田畑指入証文 貞享二年（一六八五）

湯川久弥家文書

〔端裏書〕寺原西地重左衛門殿売渡シ申節証文下書

ひかえ

覚

一西地之内、中道ノ東大谷切畑半分ノ分、当丑ノ春ノ米三斗宛、壺ヶ年切ニ御年貢ニ納、作らせ申所実正也、御年貢米之儀ハ壺ヶ年切ニ埒明可被申候、其方ママふらふ後ハ此方ニ作仕筈ニ御座候、為後日預ケ一札如件、

貞享貳年丑二月十日

寺原村
茂太夫殿

預ケ主寺原村
重左衛門 ⑨
元地主証人
加左衛門 ⑨
同村庄屋証人
市右衛門 ⑨
同組頭
安次郎 ⑨
同
作右衛門 ⑨
同
治太夫 ⑨
同
徳左衛門 ⑨

19 銀子受取証文 貞享二年（一六八五）

湯川久弥家文書

請取申銀子之事

銀合百四拾式匁六分七也

右者本利共ニ慥ニ請取相濟申所実正也、其方之預り手形見へ不申候間、重而引替可申候間、左様ニ御心得可被成候、為其請取手形如件、
貞享貳年丑ノ二月十八日
保田清水屋
加左衛門殿 参
あわ屋
五次右衛門（花押）

20 永代田地売渡証文 貞享二年（一六八五）

湯川久弥家文書

永代売渡し申田地之事

一寺原西地畑田三反三畝三步

四方類地限

此高四石七斗五升四合五勺

但シ大谷切畑共

右之代銀六百目ニ相定、永代売渡し、御未進方へ上納申所実正也、
田畑高之儀者、御檢地御帳面之通ニ所持可被致候、右紙面之通売渡

し、代銀請取申上ハ、子々孫々ニ至迄少も申分無之候、若何方ハ違乱妨申等於有之ハ、我々加判之者共罷出、急度埒明可申候、為後日仍売券証文如件、

貞享三年

丑ノ二月 日

寺原村
重左衛門殿

寺原村売主
加左衛門
寺原庄屋
市右衛門
組頭
安左衛門
同
徳左衛門
同
作之右衛門
同
治兵衛

21 薪木山売渡し証文 貞享二年（一六八五）

湯川久弥家文書

一薪木山売ケ所 但シ所ハ馬渡瀬うへ

西ハ見通、南ハ又右衛門地
北東ハ大淵、山境

右代銀三拾二目シ、銀子請取申所実正明白也、代々我等支配仕候通ニ後々迄其方ニ所持可被致候、若万一いか様之儀出来仕候共、右紙面之通売渡シ申上者、於薪木山ニ子々孫々迄少も申分無之候、仍而為後日売券証文如件、

貞享三年

丑ノ極月十八日

同村
加左衛門殿

寺原村売主
四郎五郎
証人
源右衛門
同村
源右衛門

22 土地売渡し証文 貞享三年（一六八六）

湯川久弥家文書

永代売渡し申田地之事

小原下之段
一新田売反歩

高四斗

但、地ハ下ノはしこ也
四方類地限り善太夫かへ地

右之通永代売渡、代銀百六拾目請取申所実正也、御年貢之儀ハ、御公儀御帳面之通納可被申候、本証文ハ我等方ニ御座候、右御売渡申上ハ他ハ不申及ス、子々孫々まで少も申分無之候、為後日仍売券証

文如件、

貞享三年

寅八月廿八日

九郎太郎殿

本主
富右衛門
三田村庄屋
弥之助
同村証人
佐左衛門

23 土地売渡し証文 貞享三年（一六八六）

湯川久弥家文書

永代売渡申山切畑之事

上原上之段ミぞ上中岸残り

一切畑式町式反七畝六歩

境目

此高老石売斗三升五合

東ハ貴殿類地ハ
西ハ預分限り
北南類地限

右之通永代売渡、代銀百八拾目請取申所実正明白也、畑高之儀ハ御公儀御帳面之通可被致所持候、右紙面之通売渡代銀受取申上者、子々孫々迄少も申分無之候、若何方ハ違乱申者有之ニおゐてハ加判之者罷出、急度埒明可申候、為後日売券証文如件、

本人三田村
富右衛門
証人同村庄屋
弥之助
寺原村庄屋同
市右衛門
証人
笠松佐太夫

貞享三年寅十二月八日

清水寺原村
加左衛門殿

* 史料中にみえる、寺原村庄屋市右衛門家は湯子家に継承され、同村加左衛門は湯川久弥家に継承されていると推測される。

24 銀子借用添証文 万延元年（一八六〇）

清水上番田人文書

添手形之事

一新田開記御証文三通并村方シ証文四通共

内四百目也

右者此度我等渡世ニ差支、無拋先祖ノ所持之御証文由緒も御座候ニ付、其御元江相譲り、右之銀子借用仕候処実正也、然上ハ此添手形を以御証文御支配可被成候、尚又此方ノ元利返金仕候節ハ、何時ニ而も御証文御返し可被申候、依而為後日添手形如件、

万延元年十月

清水寺御納所取次

湯子伝左衛門殿

三田村
左太夫 印
証人寺原
定平 印

22 新田売放し証文 文久元年（一八六一）

清水上番田人文書

放券一札之事

一銀百目也

右者新田御証文を以銀四百目借用仕有之候処、今度離切ニ付而為渡銀百目御渡被下難有頂戴仕候、右御証文ニ付而ハ外方ノ何等差構無之候、万一有之候ハ、此判形人馳出急度埒明可申候、仍而放券如件、

文久元酉八月

三田村
左太夫 印
寺原村
定平 印

伝左衛門殿

26 新田証文預かり証文 文久元年（一八六一）

清水上番田人文書

覚

一銀五百目也

外二六拾五匁 壹ケ年利銀相添受取申候

右者小原新田開き御証文、三田村佐太夫方ニ先年ノ所持有之候処、同人極難渋ニ付、聊差寄ニ致度候由ニ而求呉候様頼出し付、無拋本行

之銀子ニ而買求、此度新田所持人一統割賦被下儘ニ受取申候、然ル上者御一統中之御支配ニ可被成候、尤右御証文ニおゐて何方ノ茂障妨ケ無之候、右御証文壹卷箱入寺原村庄屋元江預ケ置申候、依而為後日如件、

文久元年酉十二月

新田所持人

御一統衆中

湯子伝左衛門 印

27 新田証文売り渡しにつき覚書 文久元年（一八六一）

清水上番田人文書

覚

一新田御証文

小峠分 式通

蘭嶋分 三通

小原分 式通

五通

外ニ小原之分ニ久野原古田持ノ入候証文有之筈、只今見江不申候間、後々下垣内ニ残り有之候歟、又ハ寺原庄屋元ニ而茂有之歟可心懸事ニ候、

右万延元庚申暮銀四百目差遣、右之証文請取候手形別ニ有之候、併外方ノ後日此証文請戻し度由申出候ハ、去天保八酉年金三兩寺原武兵衛方へ差出し有之候、金子元利共為差出候様御心得有之度候事、

※『清水町誌 史料篇』四八一—二頁掲載史料を転載。

28 三田村左太夫願書（控） 天保八年（一八三七）

堀江家文書

一私御高拾石余所持候、親左太夫儀十六ケ年已前午七月病死候ニ付、

私若年^二而相続仕候処、翌未敏四月村方宇右衛門倅直二郎と申者
出願^〆事発、村方^〆申出候^二者…(中略)

…兎角少々の干魃^二も右分水^〆も水為曳不申、或者出水之節^者分
水堀捨候等と、毎々村方^〆故障申立、農業差留め、毛付等相後レ、
年々作り劣り、御年貢等指支、誠以当惑支候、何卒先年之通上下
古井手^〆水曳、田作相成候様奉願上候、

(下ヶ紙)

「本文奉願上候私田地^江相掛り候谷井用水之儀^者、往古村方日損
急水所^二而、多ク畑地之場所^二御座候処、先祖左太夫大庄屋相
勤候節、寛文五巳年二月從御上新溝普請被仰付、遠井之谷^〆三
田村^江堀継候井溝^〆落候谷井用水^二て御座候、其節村方過半田
作仕候様^二相成候儀^二御座候、右に付^而者新溝^〆落候谷井用水
〆銘々分ヶ当テ田作仕候^而も、少シも田土^〆仲間^〆彼是申儀^者無
之筈と奉存候得共、私田地^江水曳候儀、本文得申上候通、私宅
人水料村方^江差出し候儀、誠^二難渋仕候、勿論私百姓株永々之
難題^二も相成、歎ヶ敷奉存候、何卒御賢慮を以株式難題^二不相
成様被為成下候ハ、冥加至極難有奉存候、此段御許容之程奉
願上候、

*堀江亀之助あて三田村左大夫願書(堀江家文書)の一部。なお表紙貼付ラベルに
は湯子家文書432と記されている。三田村新溝と谷井用水の関係が示され、且つ三
田村新溝の造成年代が分かる。

【二】笠松家の由緒と系図

(一) 由緒書

29 笠松家先祖由緒書 天保八年(一八三七)

豊中市 笠松高信家文書

南龍院様御入国之御後、寛永年中保田家由緒之者依 御尋、乍恐
私先祖笠松左太夫家系之儀奉申上候処、保田三助一族保田三郎左
衛門重郷為嫡孫儀、達上聞、広浦於 御殿御目見被仰付、其節郡
御奉行所名取弥次右衛門殿・鈴木権左衛門殿^〆山保田大庄屋被仰
付相勤候、役中清水村・久野原村式ヶ村之内田畑日損急水之場所
^二而作物難出来、年々百姓共傷弱り、家を潰し、田畑を上ヶ、大
勢他所^江奉公稼^二罷出候^二付、前々^〆御普請奉願、御見分被成下
候得共、所々難所御座候^而、御普請難被成趣に付、何卒自分働ヲ
以、譜代召抱候下人又^者村々百姓共^江申談、普請仕立見奉申上度
奉願候処、願之通被仰付、昼夜精出シ骨折候^而普請成就仕、於両
村^二高五百石余日損急水を救ひ候様相成、右申上候通之弱人百姓、
段々呼返シ、家共相続為仕候、此段郡御奉行衆御吟味之上被仰達
被成下候^二付、極難所之所結構普請出来仕候段、御誉被遊候由
^二而、御褒美新田之場所被下置、猶又清水村^二而荒地自分開^二仕
候様被仰付、御請奉申上、六町余新田出来仕、畝高^并定免^二被仰
付、則御証文被下置、其後山中筋御為^二可成儀、并百姓共難渋仕
候村々吟味之上、日損所急水所昼夜精出シ普請仕立、山保田^二而
十三ヶ所井水仕掛、且^者新池等出来数多、日損を助ヶ候付、新田
并畑返り共村々^二数多出来、且又承応・明曆年中清水村之内蘭嶋・
小峠・小原^与申所、右三ヶ所斗代反^二付四斗盛、定式ツ取^二被仰
付、御証文左太夫^江被下置候、都合於清水村^二惣新田八町八反余